

MCS 活用状況アンケート結果報告

1 調査目的

MCSは、埼玉県在宅医療提供体制充実支援事業の一環として、埼玉県と県医師会が多職種ネットワークツールとして県内での普及を図ることとなり、朝霞地区では2016年度（平成28年度）の初回説明会をおこない、医師会での協議を経て地区内での導入を図ることになりました。その後も説明会を実施し普及啓発を図ってきましたが、現在支援室で把握している登録者数は80事業所と少ない状況にあります。

これらを背景に、導入から5年が経過し普及も進んでいない状況にあることから、活用状況を把握し、今後の対応を検討する目的からアンケート調査を実施しました。

2 調査結果

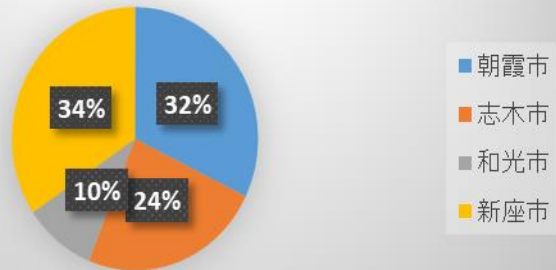
1) 調査は令和4年2月10日から3月3日に、朝霞地区内の医療・介護関係事業所795か所にアンケート用紙を配布し、180人の回答があり回答率は22.6%でした。回答率の高い事業所は、地域包括支援センター59.1%で、次いで訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所が31.3%で、医科歯科診療所は19.3%、10.6%でした。

(表1：送付数、回答数、回答結果)

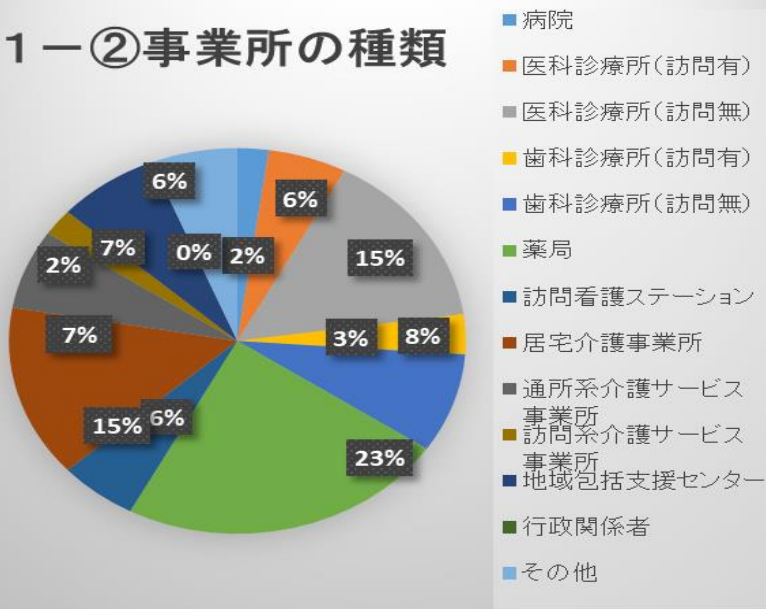
	回答数	送付数	回答率	送付方法
医師会	37	164	19.3%	FAX・HP
医師会非会員		28		郵送
歯科医師会	21	123	10.6%	事務局依頼
歯科医師会非会員		76		郵送
薬剤師会	42	111	27.1%	事務局依頼
薬剤師会非会員		44		郵送
病院	4	17	23.5%	FAX
訪問看護ステーション	10	32	31.3%	4市依頼
居宅介護事業所	26	83	31.3%	〃
地域包括支援センター	13	22	59.1%	〃
介護サービス事業所	27	95	28.4%	〃
行政関係者	0	4	0%	メール
計	180	795	22.6%	

回答者180人の①事業所の所在地は、朝霞市32%、志木市24%、和光市10%、新座市34%、②所属事業所は、薬局23%、歯科診療所（訪問無）・居宅介護事業所15%③訪問で業務を行う1か月の頻度は、訪問なし34%、11回以上30%でした。

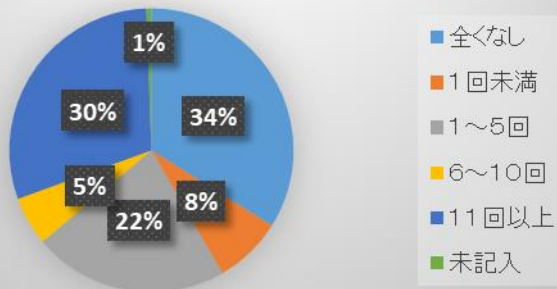
1-①事業所の所在地



1-②事業所の種類

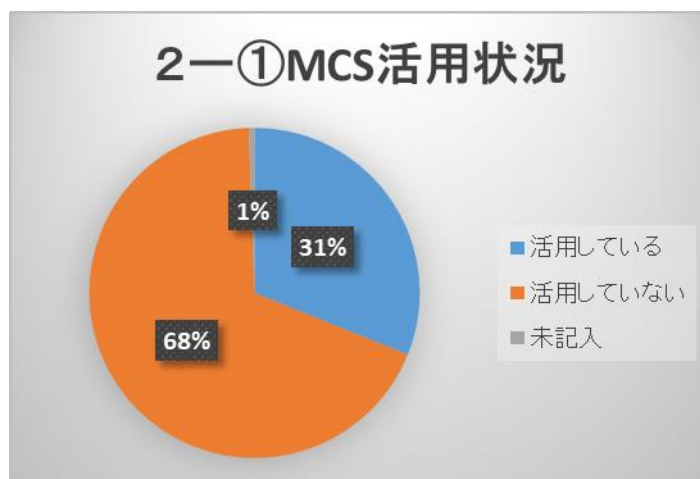


1-③訪問で業務を行う 1か月の頻度



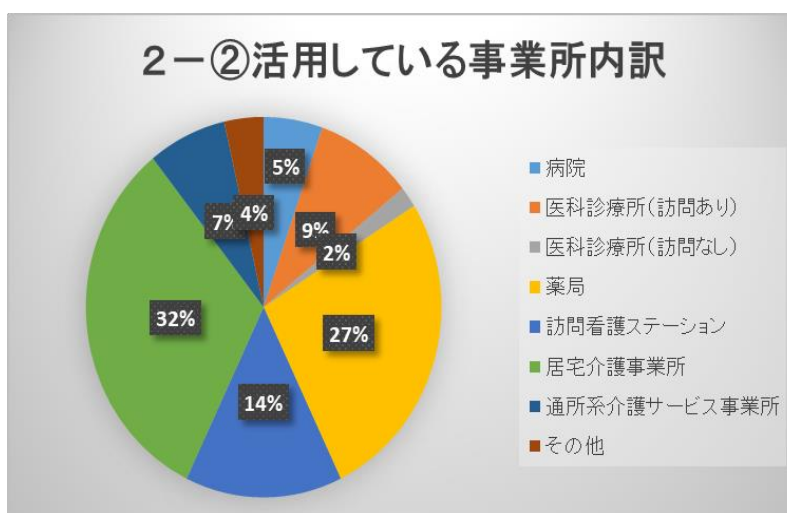
MCSの活用状況は、活用していない68%、活用している31%でした。

2-①MCS活用状況

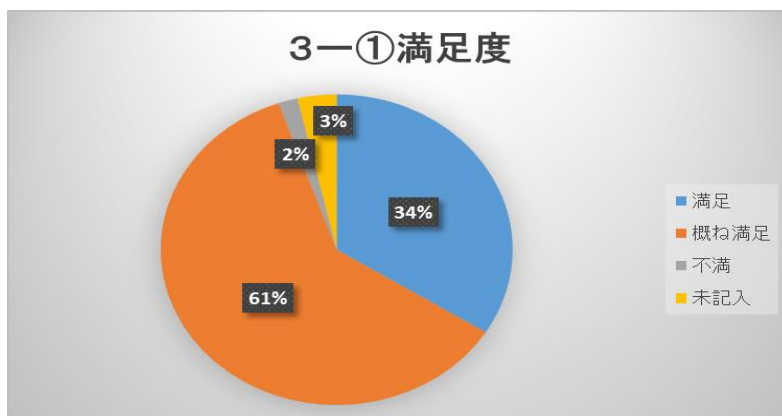


2) 活用していると回答された56人への追加質問の結果は、①所属事業所は、居宅介護事業所が18(32%)、薬局15(27%)、訪問看護ステーション8(7%)、訪問ありの医科診療所5(9%)、病院3(5%)、②満足度は、ほぼ満足34(61%)、満足19(34%)と95%が満足の回答がありました。

2-②活用している事業所内訳



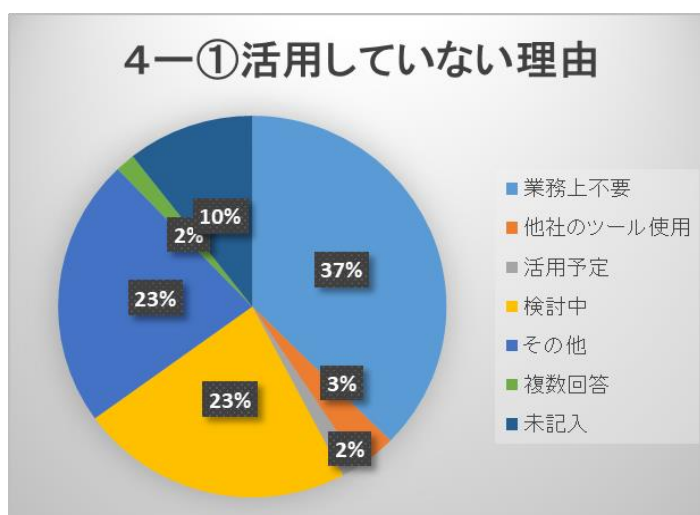
3-①満足度



次に、連携における課題等についての自由記載には24人の回答があり、主な内容は①

良いこととして、「医師、看護師、薬局との情報共有ができる」「リアルタイムの情報があり、次の対応がしやすい」等の内容がありました。②操作機能について「登録しにくい、手間がかかる」「呼び出し音があると良い」「患者のグループ分けがあると良い」③参加実態について、「診療所、介護サービス事業所の参加が少ない」の意見が多くあり、④提案として使用している事業所、患者個人以外の情報共有等がありました。さらに、課題解消の機能についての自由記載には11名の回答があり、主な内容は、登録・機能について、「アプリのように簡単にアクセスできるようになると良い」「アンドロイド版アプリの再開、プリント、コピーができると良い」、その他「公的なツールとして周知されること」「事例提供の勉強会」等がありました。

3) 活用していないと回答された123人への追加質問の結果は、活用していない理由として、「業務上不要」が37%と最も高く「検討中」が23%「その他」が28%で、その他の内容では、「MCSの存在を知らなかった」「(活用の)機会がない、職場環境」等32の回答がありました。



次に、活用するために必要な機能、支援等についての自由記載には14名の回答があり、主な内容として、機能面について「登録が簡単な方がよい」「活用方法の手順や費用、トラブル時の連携方法等が知りたい」「患者の個人情報保護の上で、医師以外でも管理可と出来るように、主治医からの招待、共通の掲示板、情報共有機能があると日常活用できると思う」、他「行政から指示等があれば使用したい」等がありました。

4) その他の自由記載には46名の回答があり、主な内容は、①良かったことでは、「医療連携がとりやすくて、とても助かっている」という意見が多くあり「写真も送れるし、大変使いやすい」「今後、医療介護連携において非常に有効なツールだと思われる」「重要な情報をすぐに共有できるので助かっている」、課題として「MCSをやっている医師が分からない」「終了になった方の名前が削除できないがん末期の対象者対応もあり、多職種で関わる際に必要」「包括だけ活用できない状況」「管理者や訪問担当者の異動や退職により

パスワード等が引き継げない場合がある」、提案として「活用のモデルケース等の公開」「包括支援センターからの活用事例の発信」「活動内容を発信して欲しい」「患者ページ作成を医師が作らないとできないが、利用者との同意を得てケアマネが作成すべきではないか、事業者がMCSを知らない、行政、包括、病院が活用していないことから研修会等が必要」等がありました。

- 5) 地域包括ケア支援室への意見要望には14の回答があり、主な内容は、「支援室の使い方や地域の医療情報等定期的に出して欲しい」「ふじみ野市の事件を受け、カスタマーハラスメントや警察、法律家との連携や話を聞きたい」「ZOOMを利用した多職種が参加できる研修を定期的に行って欲しい」等の要望がありました。

3 今後に向けて

多くの回答を得まして、当地区の医療介護連携ツールMCSの活用実態の把握をすることが出来ました。このアンケート結果を、令和4年度朝霞地区医療介護連携推進会議において今後の方向性の協議検討をおこないたいと考えています。